

宿泊したホテルから歩いて5分くらいのところに小さな公園があった。周囲が住宅街になっているので、日本で言えば町内公園といったところだろう。朝から公園には人が多い。最初に行ったのが日曜日だったので、平日に再度訪れてみたが、相変わらず混み合っている。ガイドのリンさんに聞くと、家の中が狭くて暑いので外に出て涼んでいる人が多いのだそう。しかし、それだけではなさそう。コミュニケーションの場にもなっている様子である。

公園は思ったより整備されている。噴水池の回りには植え込みがあり、若者が体操したり、休憩していた。この向こうに土のグラウンドがある。大きな木も多く、その木陰にはベンチやテーブルと椅子が置かれてある。



右の写真に見るようにグラウンドではバドミントンをやっている中年のグループもいた。グラウンドで行われているものは日によって変わる。同好会がお互いに調整し合っているのかもしれない。

日によっては婦人のグループが揃いの扇子を使って練習をしていた。始めは踊りのようにみえたが、どうやら体操らしい。指導者の掛け声でいろんなポーズをとっている。

いつものことなのだろう。周りで見ている人はいない。それぞれがくつろぎ楽しんでいる。

一人静かに新聞を読んでいる人も居れば太極拳の型を自習している人もいた。



友人同士だろう。円く集まって話し込んでいる人達もいた。

年寄りの憩いの場。主婦達の情報交換の場。若者の運動の場。子供の遊び場として有効に利用されている。気象や住宅事情によるのだろうが、東南アジアの人達は屋外に居るのが好きなようだ。



この二枚は今ベトナムの若者に人気のスポーツらしい。方々で見かける。名前はわからないが足で打つ羽根突きだ。一度オリンピックの種目にもなったことがあるセパ・タクローという競技がある。竹で編んだボールを足で蹴るバレーボールの様なものだ。それとバトミントンとを融合したようなスポーツだ。バトミンントンの羽根の三倍くらいのプラスチック製の羽根を野球のキャッチボールをするように足の甲で打ち合っている。中には体をねじって足裏で打ったり、中には背面で上手に足裏を使って打つ高度なテクニックを披露している少年もいた。羽根一つ持っていけばどこでも出来るし、ゆっくり飛ぶ羽根は打ち合いが長く続くし、狭いスペースでも他人の迷惑にもならず楽しめる。

後ろでアクロバットのような打ち方に感心して見ていると、羽根が飛んできた。足元に落ちた羽根を拾って投げてやると、二十歳前後の若者が「サンキュー」とにっこりとして、オーバーヘッドで見事に相手に打ち返した。しまった、こちらも足で打てばよかったと思った。

若者がいきいきと動き回っているのに比べて、年寄りのパワーはあまり感じられない。商店の店先に座って店番をしているのを見かけるくらいだ。ベトナムナウは若者のエネルギーに溢れている。農村ではまた違うかもしれないが、少なくとも都会ではそういう印象を持った。



街中でバスから撮った光景だが、ここは英会話のスクールである。今、ベトナムでは語学スクールが人気で、数多く開校していてどこも満杯らしい。

特に、英会話スクールが人気でその学校の前はここにある様に子供を送ってきた親や学生でいつも混雑しているらしい。

外国企業の進出が著しいベトナムでは外国語を話せることが良い仕事を得る近道なのだ。

日本からの駐在者も多い。商社や工場が進出して来ているので日本料理屋の看板も多く見かけるし、日本人会の広告も見る。日本語の学習も近年、人気上昇しているようだ。うれしいことである。